

あなたとわたしのパーソナル・アシスタント考

* Webトップページのessaisに2025年5月23日（金）から書いたものの一式

2025年5月23日（金） 晴れ

薫風五月がもどった。昨夜から急に風がつめたくなり、今日の最高気温は27°Cのようだけど、カラっとしているからすごしやすい。ただ明日はぐっとさがり21°Cで、雨の予報。来週も雨のマークが多い。さわやかな五月も今日でおいまい？

ー あなたとわたしの パーソナル・アシスタント考ー（1）

『コンセプト、スタンス、スタイル』 ①

今年は事務所開設30周年の節目だから、2年前から何か記念的なことをとを考えていた。まさきに思いついたのは当時開いていた「リーズサロン」だった。

一回きりの拡大サロンをイメージしたが、これ見よがし？ 声をかけられる側もこまるだろうと思った。

なら、仕事で交流があり、人を支える仕事を専門にする人たちとの「あなたとわたしのパーソナル・アシスタント研究会」は？

それも人それぞれ問題意識は異なるから、余計なお世話にちがいない。ということで、どちらもやめた。

たぶん、『老子』にふれていたことが2つの案をひっこめた。『無為自然』がなんとなくしみ込んだか。

通常のカタチで自分なりに節目をつける。リーズレターがあるし、このサイトもある。今年の立春レターは記念版にした。

このサイトでは昨年10月からばちばち節目のアプローチをしてきた。今回からは先の「研究会」にとりかかってみよう。

まず、22年前の2003年1月旧Webサイトに載せた「LYK流パーソナル・アシスタント十カ条」をみよう。

1) この名称は仕事の種類ではなく仕事のやり方を指す

- 2) よって一つ以上の専門分野を有する
- 3) クライアントのビジョンを実現するための助言者、苦言者、激励者、媒体者、協働者であること
- 4) クライアントのよき聴き手であること
- 5) クライアントのシーズとニーズに柔軟に対応するため自身を媒体に多様な外部資源の調達と運用を助けること
- 6) 時としてクライアントの代理人として取引関係者と面談、商談、交渉をおこなう
- 7) 必要におうじてクライアントの組織の一員として対外交渉にあたる
- 8) 必要におうじてクライアント組織の人々の業務に協力する
- 9) クライアントの取り組むテーマを適切に処理できる状況を創る
- 10) この役割を最大限に発揮するために価値観と感性を共有できるクライアントに就く

こうみると、なんとも仰々しいが、根本はかわっていない。

2025年5月26日（月） 曇り

一昨日から気温がぐっと下がった。雨がふり、曇り空がつづく。今週も晴れ間は少なそう。このまま梅雨入りか。

ー あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考ー（1）

『コンセプト、スタンス、スタイル』 ②

何を自分の仕事にするか。独立を決意してからずっと考えた。3ヶ月ぐらい経ったある日のある瞬間、貯まった思考の一塊々がカチッとおさまった。

業の型が頭のなかにできた。目の前の仕事に追われ、将来のために必要な仕事が後回しになりがちな中小企業経営者を外から適時支援する。

そのスタンスとスタイルは前回にあげた十カ条が頭の中に漠然とつらなっていた。さあそこで、その業のイメージをなんと表すか。

またずっと考えていた。1ヶ月ほどして、たしか今の「パソナ」の広報紙の記事が目にはいった。

ヨーロッパにはエグゼクティブに就く「パーソナル・アシスタント」という仕事があると紹介されていた。

セクレタリーのような補佐役ではなく、時にはボスに苦言を呈して、業務の円滑化をうながすパートナー、云々。

読んで、自分のやろうとする仕事そのままだと思った。所属はしないが、経営者の経営企画関連業務を外から支援するパートナー。

それに「パーソナル・アシスタント」はまったく属人的な仕事だと思った。「パーソナル・アシスタント」を名乗る人ごとにスタイルがある、要る。

業の名称を「パーソナル・アシスタント」に決めた。LYK流「パーソナル・アシスタント」。

2015年12月初め、「野村総研」と英オックスフォード大学の人工知能にかかわる共同研究の結果がリリースされた。

「10～20年後に、日本の労働人口の約49%が就いている職業において、AIやロボットが代替することが可能」。

一方で、「創造性、協調性が必要な業務や、非定型な業務は、将来においても人が担う」。

このリリースから10年経った。「パーソナル・アシスタント」は、AI時代も人の担う業務の〈総合職〉といえるのではないか。

これからのどの仕事・専門職もとっても、「パーソナル・アシスタント」につとめれば、人のためになり自分のためにもなる活躍ができそう。

だから、「あなたとわたしのパーソナル・アシスタント」を考えてみようかと。

2025年5月30日（金） 曇り

今週はほぼ曇り空で、時々雨。五月も明日で終わるが、このまま近畿も梅雨入りするのか、薫風を味わう間も少なくなってきた。

— あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考—（1）

『コンセプト、スタンス、スタイル』 ③

“わたしは、「信頼」が何かを知っている…”。LYK流パーソナル・アシスタント誕生の根底には、この自己概念があった。

業を構想するのに、自分ならではの面を冷静に掘りおこしていて、極めつけがそれだと、いきついた。

思いあがりではなく、他者の目でみるように、そうみえた。勤めた会社での評価と待遇、印象的な場面などを思い出して。

短所も多いが、それでも”信頼できる”と、理屈以上に感覚的にみてとってもらえた人に出会えたのは幸運だった。

なにせ、「パーソナル・アシスタント？　なんですか、それ」という人がほとんどだった。社会の現実を知るのに1年もかからなかった。

たまたま中小企業診断士を取ったおかげで、「パーソナル・アシスタント」にも少し光があたった。

資格は未来を保証しない。でも過去の一定の努力の証明にはなる。社会的に認知されているものなら、なおさら。

ふりかえると、事務所をもった段階でも世の中のことは何もわかっていなかった。なぜそこまでわからずに済んでいたのかと考えたほど。

本当の社会勉強は1995年から始まり、今も続いているが、外と自分の世界を少しずつとらえられるようになったのは、よかった。

中井先生のいう『世界における索引と徴候』を地でいっているのだと思う。誰でも、そういう世界を築くことになるのだと思う。

さて、10数年前のある日、LYK流パーソナル・アシスタントは、仕事もふくめて、自分の生きるコンセプトなんだと思い至った。

今ごろ気づいたのか、と自分に問いたくなる感じさえした。これまで意識せずやっていたことの意味を再認識した。

公私ともに行動様式も微妙にかわっていったような…。

2025年6月2日（月） 晴から曇

昨日はなんとか晴れた。今日は午後から曇り、明日は雨の予報。その後週末まで晴れる。その後梅雨入りか。

ー あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考ー (1)

『コンセプト、スタンス、スタイル』 ④

話して、「はなせる」。話せる、離せる、放せる。安心して話せる、不穏に間をおける、個性を解ける。

LYK流パーソナル・アシスタントを着想した時から、「はなせる」を大事な役割を考えていた。意識することなく、当然視していた。

だから図書館で『ヘルピング・インタビュー 援助する面接』という本のタイトルを目にした時には、これだ！と思った。

本の内容自体は心理カウンセリングで、内容は全く覚えていないが、「はなせる」を適切に表してくれていると感じた。

ちなみにこの本はある相談者にプレゼントした。やりたい業をよくよく聴いていると、この本が役に立つのではないかと思った。

遠慮しがちに本を受けとったご本人。この段階ではどう役に立つのかピンときていない感じだった。

それから3年がすぎた昨年、その間に挑んだある資格に合格して、報告にきてくれた話。

「以前本をプレゼントしていただいたんですけど、覚えてらっしゃいますか？」。「もちろん、『ヘルピング・インタビュー』」。

もらった時、正直なところ、この本が自分にとってどういう意味をもつのか、わからなかった。そのまま本棚にしまったままだった。

先日ふと本が目にとまった。今の自分にとっては、この先の活動に役に立つテーマ。その本がいま自分の手元にある…。

「そのことがほんとうに不思議で…、こうなることがわかってられたのかなと思って、すごいなあ、と」。

たぶんたくさんの人の進路をみて、聴いてきているので、先の展開とか状況をなんとなくイメージできることはある。

そこで直感した象徴がその本だったのだと思う。この件の出発点の面談自体、「ヘルピング・インタビュー」だったといえる。

2025年6月5日（木）芒種 晴れ

昨日は良い日和だった。気温は高いけどカラッとして、風があり、午前中は陽ざしも柔らかく、なんというか、クリエイティブな空気感につつまれた。今日はすこし湿度は高そうだけど、来週の梅雨入り確率をおもうと やはり蒸いておもう。

ー あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考ー（1）

『コンセプト、スタンス、スタイル』 ⑤

属して属さず、属さずして属す。考え方もやり方も、どうも越境的
というか、既存の枠組みからすると、そうになってしまう。

10年前、『滝畑てれれ』のオープニングイベントに参加した時、ゲストの「アサダ ワタル」さんが、開口一番、「みなさんご自身をヒトに何屋さんと紹介されますか？」

参加者はみな苦笑いした。いわんとすることがわかるからだ。部屋の後隅から面々を見渡し、たしかに一筋縄ではいかなそうだった。

彼はかつて「日常編集家」と称していた。さきほど検索してみると、「文化活動家」に変えたいらしい。

ちなみに、『滝畑てれれ』は10周年、『映像発信てれれ』は20周年を迎え、記念コンサートを開くとか。

<https://terere.jugem.jp/?cid=30>

さて、日本で民間のADR（裁判外紛争解決手続）認証制度ができた
した2004年当時、その普及に奔走していた医師がいる。

ADRのことも何も、まったく知らなかったけど、仕事先の人に、「あなたの仕事に通じる」と誘われ、セミナーに参加した。

実際、LYK流パーソナル・アシスタントの果たそうとする役割の一端が語られていた。医師の力説がひしひしと伝わった。

肝はなんといっても「コミュニケーション」。言語、非言語、「商品」も一つのコミュニケーションという概念の。

同時期、司法書士の団体が積極的にADRの導入をはかった。その大阪でのセミナーにも誘ってもらった。

参加して、帰って、はっと、はぁと、いう2つが混ざりあったような、今さらながらの気づきとありがたいなぁと気持ちが湧いた。

「あなたの仕事に通じる」といえる人に出会っていること、わざわざそれを知らせてくれて、実際の間を見せてもらったこと。

LYK流パーソナル・アシスタントが実践できていることの証に思えた。理解者が確かにいるということは、心の支えになる。

2025年6月9日（月） 曇から雨へ

今日をふくめ今週の予報はずっと雨マーク。今日明日にも近畿も梅雨入り間違いなし。沖縄は早々に明けた。さて、全国的にはどうか。

— あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考—（2）

『PAの軸と訓』 ①

人を支える仕事のほとんどは、よく言われるように、問題解決の糸口は相手の中にある。それを常識化しなければ。

アシストする側のパターン化された解決方法は表面的、短期的には、功を奏すようにみえて、弊害になる時もある。

専門家もコモディティ化してきたと感じたのは10年以上前だったか。自分の仕事のために仕事するコンサルタントの実例を耳にしたこともある。

しばらくして新聞の出版広告に『謙虚なコンサルティング』（エドガー・H・シャイン）が載った。時代の要請なんだと感じた。

自業（じぎょう）。そのココロは、自分ならではの仕事で誰かのためになり自分のためにもなう生き方。

その実践をLYK流パーソナル・アシスタントで試みて、いまでも続けている、『究めれば そこが 天職』に励まされ。

中井久夫先生も自分を励ますことは大事だと言っていた。自分を励まし、自分を教える。

「自業の軸」と「自業訓」を初めて明文化したのは2015年だった。いま確認して、事務所開設から10年の節目だったと気づいた。

いずれの明文もこれまで二度更新、2019年と2024年。5年ほどすると、学びがまた一つ重なるからだろうと思う。

2つとも全く個人的なものなので、紹介することもないけど、PA一般に共通する訓（教え）は有りそう。

この機会に考えようかと思う。「自業訓」は5つであげている。まずは五訓で考えてみるとしよう。

2025年6月12日（木） 曇

今朝すこし陽が照ったが、やはり梅雨、続かない。とりあえず雨は降らなさそう。昨日〈話す〉で宇治の三室戸寺の象鼻杯、今年は7月12日のこと。

ー あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考ー（2）

『PAの軸と訓』 ②

パーソナル・アシスタント（PA）という言葉は同じでも、実践はその人それぞれ。でも共通して大切な〈掟〉はありそう。

そこで、PA共通の自分にむけた訓（教え）を考えることにしたが、PA共通の軸は挙げられるだろうか。

「自分の軸」には7年前、「自分の守りたいものの究極」と定めた。これにならえば、「PAの守りたいものの究極」となるが…。

信頼。しばらく考えたが、やはりこれか。クライアントからの信頼、クライアントへの信頼。

『信頼の構造』の著者は、信頼について、次のように述べていた。

「相手の（自分に対する感情までも含めた意味での）人間性のゆえに、相手が自分に対して、そんなひどいことはしないだろうと考えること」

最近聴くようになった「小林秀雄」の講演音声では、「自分の中で信じること、それに責任をとること」。

クライアントからの信頼に、クライアントへの信頼には責任がともなう、たしかに。相手の状況悪化に逃げる、あり得ない。

PAの軸、まずは「クライアントから、クライアントへの信頼」とすえて、PAの訓の第一は？

そもそも簡単に人と信頼関係は築けないので、たがいにそれができていると感じ、協働できる状況を想像すればよさそう。

となると、世界観というか、文化というか、価値観と思考・行動様式にどこか通じるものがないと、接近しがたい。

LYK流パーソナル・アシスタント10カ条の10番目が、もう少し考える必要があるけど、第一挙げられるかもしれない。

2025年6月16日（月） 曇から晴

梅雨入りして間もないのに中休みか、お昼前から晴れて日中は33℃まで上がる予報。今年も長い夏を覚悟。

— あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考—（2）

『PAの軸と訓』 ③

『類は友を呼ぶ』がよく目に見えるのはビジネスの世界だと感じてきた。今あらためてこの言葉の出版を調べてみたら、『易経』という。

9年前に単発の仕事グループに誘われ参加した。その打ち上げの会食で相手先であるの企業のトップから『易経』の話が出た。

勉強会に参加していて、すごくなるという。すこし興味をもった。追って図書館で調べ、そのファイルは今も保管している。

今年2月船場センター街の古書店で『新装版 中国の思想7 易経』（徳間書店 昭和42）が平積み格安コーナーにあった。

300円だったから買った。『易経』繫辞上傳にある、『方は類を以って聚まり、物は羣を以って分れて吉凶生ず』がもとらしい。

「（略）。万物はまた、その性質や運動法則によって、それぞれの群にわかれ、相互に作用することによって吉凶を生み出す」。

目次をみると、64卦の中に「友を求めて」という文字が見えた。「第13卦 同人」。解説ページを開いてみる。

「同人とは、人と志を同じくする、同志を求めてともに行くこと。〈同人雑誌〉の語源である」。

そして、「（略） 人々を組織してゆくには、けっして旧来の私縁を頼りにしてはならない。あくまで公的な人間関係を創り出すことが大切である」。

さらに、「そのため、初めは孤独に苦しむだろうが、安易な道を選んではならない。初志を貫徹すれば、かならず喜びがおとずれる」。

こうみると、LYK流パーソナル・アシスタントの10番目に通じる。あり様全体に通じる気がしてきた。

せっかくだから音読の一冊にするのもいいかもしれない。もともとは哲理として受けとめられていたのだから。

それはさておき、PAの訓第一も「同人」に通じるのではないか。そこで、まず「志」の意味を確認しておこう。

「（ア）ある方向を目ざす気持ち。心に思い決めた目的や目標。
（イ）心の持ち方。信念。志操。」

ちなみに「志操」とは、「自分の主義や主張などを固く守って変えない心」をいうらしい。あまり使ったことがない言葉。

第一訓、「志を同じくする人と自然に出会えるよう、孤軍奮闘にめげず、自分磨きにつとめる」？

2025年6月19日（木） 晴

連日の猛暑、梅雨はどこへいったやら。しばらく雨のマークはない。やはりカラ梅雨か。一昨年から夏が長い。今年はさらに長くなる。「猛暑手当」が要る時代になるか。

ー あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考ー (2)

『PAの軸と訓』 ④

前回の「志を同じくする人と自然に出会えるよう、孤軍奮闘にめげず、自分磨きにつとめる」を仮の第一訓として、第二はどうなるか。

ひょっとすると中井久夫先生の、「精神科医になるに当たって、私はいくつかの条件を自分に課した」に通じるものがあるかもしれない。

筆写してある。その条件は8点で、第一は「治療だけをする」、すなわち、「研究のため」に診ないということ。

第二、「有害なことはしない」、すなわち、よい兆しのない時は、「現状維持に努める」。

第三、「有害性が予見されない限り、よいとされることはやってみる」、ただし科学の力は限られるので、「よい策のない時は〈待つ〉」。

第四、「自分ができないことを患者に要求しない」、自分が患者の立場におかれたら…と。

第五、「指導ということはなるべくしないようにして、患者が何を求めているかをまず知ろうとした」。

これはすごく大事。中井先生は、「指導は、しばしば患者の意向をわからなくさせる」といい、

「私のわからないことはやだて対象が教えてくれるだろうという楽観主義を取ることにした」。

第六、「当分は、効率を考えないことにした」。そこで、「観察密度を上げ、グラフ用紙を使い何らかの傾向を発見することに努めた」。

第七、「総合失調症にも一定の経過の法則ありと仮定した」。まもなく同じ説の海外の文献に出会い、「勇気づけられた」。

第八、「特別患者をつくらない」。総合失調症以外の患者もみて、「患者の無選択をできるだけ実行しようと努めた」。

これらの8点について、「これらは全体として、〈高度の平凡性〉をかなり備えていると思う」と語っている。

この「高度の平凡性」という言葉が印象的。本来の目的や使命から逸脱せず、本質を見すえればわかるあるべき姿。

「あまり巧緻で複雑な治療方式をとることは一般論的に望ましくなく、高度の平凡性にもよい面があるのではないか」。

この著書を読んだ時、人を支える仕事全般に通じる誠めだと感じた。その精神にあやかろうと書き写した。

たぶん、二、四、五の3つは、PAに共通していえることだと思う。さらに何かポイントがありそう、第二に挙げるには。

2025年6月24日（火） 雨

梅雨がもどり、今週は雨模様。今日の気温は30℃を下回るけど、蒸し暑い。まだこれから7月か…。

— あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考— (2)

『PAの軸と訓』 ⑤

第二の「有害なことはしない」、第四の「自分ができないことを患者に要求しない」、第五の患者の求めを知ろうとした、ということ。

この3点を頭におきながら、PA訓の第二を表すとしたら…。ちょっと考えた。簡潔に、象徴的に表すことにした。

「押しつけず、押し売らず、推し量る」。仮にそうしよう。

PA側のパターン化した〈こたえ〉やサービス商品で存在感を示そうとせず、相手の話す〈問題〉の本質を推し量ろうと努める。

さて、第三はどうか。仮の第一は「志を同じくする人と自然に出会えるよう、孤軍奮闘にめげず、自分磨きにつとめる」だった。

第一も、第二も、『言うは易く行ふは難し』。「老子」の81章の冒頭に、「信じられる言葉は美しくない。美しい言葉は信じられない」。

もっともらしい訓に実を与えないといけない。そういえば最近よく聴いている「小林秀雄」講演録に耳の痛い話があった。

本居宣長が弟子たちに乞われて書いた学問の指南書、『うひ山ぶみ（うい山ぶみ）』の話。

いろいろ書いた上で、でも、学問に一番大事なことは、「年月長く倦まずおこたらずして、はげみつとむるぞ肝要」。

「結局のところ、学問とは、長い年月をかけて、飽きずに怠らず、ひたすら励み続けることが何より大切である」。

「小林秀雄」は、「こんなわかりきったこと知らず皆、てっとりばやく習得しようとする、昔も今も」と。21世紀の今も。

わたしたちの『行うは難し』をよくよく了解して、日々の努力や習慣を第三にあてるのがよさそうな気がする。

たぶん教養にあたる何かを毎日繰り返す、あるいは積み重ねる、そういうことではないか。もう少し考えてみるとしよう。

2025年6月27日（金） 晴れ

昨夜から少し涼しかった。今朝北浜駅から堺筋を事務所まで歩きながら、都会なのに、草原の夏の朝のような感じがした。風が気持ちよかった。今日明日にも梅雨明けか。

ー あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考ー（2）

『PAの軸と訓』 ⑥

教員による児童盗撮かつSNS上で共有のニュース。闇（病み）の世界を知らされた感じはしたが、あまり驚きはしなかった。

数か月前の宮内庁職員による天皇家生活費窃取ニュースのとき、こまできたか…ということもあったから。

『社会の構造が変れば人の意識が変わる。人の意識が変れば行動が変わる』。「戦略的マーケティング」で習ったこと。

そもそも自分を律することは難しいことだけど、今の社会はもっとそう。人を惑わすものが有りすぎる。

競争心や射幸心を煽る、自己顕示欲や承認欲求をつく、優越感や特権意識をくすぐるモノやサービスが溢れている。

自分も惑わされる、そういう認識はもっている。SNSから距離をおくのは、個人的には、ある種の〈防災〉。

PA訓の第三は、第一と二だけでなく、あとに考える第四と五のためにも、必要な「実践」をあてるのがいい。

そういえば、過去にやった創業塾や経営塾で、必ず最終日に受講者のみなさんに向けて「訓」をおくった。

一番最初は2007年の和田山でやった経営革新塾だった。各年各所でやったセミナーのものをファイルして保管している。

印象的だったのは、2008年に京都でやった創業塾。最終日の締めくくりに受講者のみなさんへ配布した「創業塾訓」。

読み上げながら今後の健闘を祈り、エールを贈ったのだが、一番感じ入っていたのは主催者の担当者だった。

修了式の挨拶で盛んに褒めてくれて、受講者にも念押しで「創業塾訓」を読み上げハッパをかけた。その様子が目にうかぶ。

その訓の中の一つ、「毎日1時間は、〈明日〉のために使う」。一日24H、半分の12Hをワークに、その10%ほど。

未来のためになることを考える、やる。はたまた、余裕をつくっておけば臨時の出来事にも対処できる。何より休息にあてられる。

PA訓第三はしばって、『毎日1時間は、休養と教養のために使う』。ボーとする時間をもつ、本業以外の本を読む、など等。

個々人に合った何かの実践。まずは第三は仮にこうしておこう。

2025年6月30日（月） 晴れ

27日来晴れが続く。30℃を超える気温ながら風があったからまだしのげた。6月中に夏バテしそうな今年の天気、暑さはこれから本番、確実に2か月続くと思うと気が遠くなる。とにかく細目に休息をとろう。

— あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考— (2)

『PAの軸と訓』 ⑦

PAに限らず、どんな仕事でもいちばん気にとめないといけないのは、「狎れない」ではないか。

「狎れ」というのは、礼を欠くほど馴れ馴れしいという意味。2005年だったか、レジメづくりの際に辞書をひいていて見つけた。

すごく大事なことだと直感した。自分の仕事にとっては特にそうだと直覚した。レジメの中にも入れた。

PAのクライアントとの関係性は、「顧客」を超え、長く親しく、信頼関係が続く友人の面もある。

といって「顧客」が消えるわけではないので、相手に慣れはしても、狎れてはいけない。

親しさから、いつのまにか緊張感がうすくなり、微妙な変化などに気づきにくくなる可能性がある。

「狎れ」を知っても、目の前のことに追われたり、気を緩めていると、どこか緩慢さが腰をすえる。

何かの節目にはっと気づき、自分にダメ押しをする。なんとか「狎れ」の手前でくい止める。

5年前に、『難しいことはそれが易しいうちに手を下し、大きなことはそれが小さいうちにしてしまう』（老子）も知った。

『天下の困難は易しいことから起こり、天下の大事は小さなことから起こる』。シンプルに大切なことを「老子」が説く。

『真に貴重な情報は〈流れの変化〉にある』と説くのはフランスの数学者、同じようなことを「孫子」も説いていた。

そこで第四の訓は、「自他ともに狎れず、ものごとの微かな変化に気をむける」としてはどうか。

いや、もう少し考える必要があるか。

2025年7月3日（木）曇り

7月に入ったとたん、風がなくなった。いやな暑さになって、今朝は特にそう感じた。よく食べ寝るので夏バテはほぼなく例年すごしているが、今年はさすがに気になってきた。そう、気にして、予防、予防。

— あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考— (2)

『PAの軸と訓』 8

1日（火）に読んだ『最終講義』に次のような一文があった。「治療者」を「PA」に置き換え、言えると思った。

苦しい時の心の支えにはこの世で誰からが自分のことを気づかってくれているということがあります。

時には治療者がそのような存在として思い起されることがあるのを治療者は知っておく必要があります。

今日3日に読んだ箇所にも、考えさせられた。

統合失調症の人のどこかに「ふるえるような、いたたしいほどのやわらかさ」を全く感じない人は治療にたずさわるべきでしょうか、どうでしょうか。

実際患者であろうと医者であろうと「心の生ぶ毛のすり切れた人」は本人も不幸であります、周囲の人もしそういう人とつき合いたいでしょうか。

「心の生ぶ毛」とは、人が持つ“かすかな兆し”を感じ取る力。心のセンサー、触手のようなもの。

人の心の中にある繊細で柔らかな感受性や、他者との関係を築くための微細な感覚を象徴しているという。

3年前の日経に「気配」についての特集があったが、うぶ毛がセンターになっている可能性を指摘していた。通じるものがある。

「他者との関係を築くための微細な感覚」、それをすり切らせず、ちゃんと機能させておかないとPAの役目も果たせない。

前回かんがえた第四の訓、「自他ともに狎れず、ものごとの微かな変化に気をむける」、あらためて。

「自他ともに狎れず、〈微細な変化〉に気をくばり、呼応・適応する」。まずはこうしておこう。

2025年7月7日（月）小暑 晴れ

連日の猛暑、今日は37℃まで上がるそう。 「大書」ほどの暑さ。 昨朝せみの初鳴きをきいた。 6月中に梅雨明けしたから蟬のことをすっかり忘れていた。あまりの暑さのせいか、鳴きのあとは続かなかった。

ー あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考ー（2）

『PAの軸と訓』 9

さて、最後の第五の訓は、支援する相手との〈付き合い方〉に焦点をあてたい。「顧客」に留まらない関係づくり。

そこには、PAに限らず、人間個々人の「コミュニケーション」の取り方がある。だから一般化して言うのは難しい。

中井久夫先生は、男性に限り、そしてその気になった時に、診察の終わりに患者さんと握手とすると著書に書かれていた。

その握手にはいろんな意味をこめるらしい。長く待たせたのにあまり実りがなくて申し訳なかった、ある合意ができてよかった、とか。

病院内では、中井先生は握手で患者を直していると噂されたらしいが、この握手に、「一般性をもたせようとは思わない」。

そう、中井先生以外の人が真似してやっても、功を奏すかどうか疑わしい。自然にできる人なら別だけど。

わたしの場合は「手紙」。以前にも書いたが、手紙が功を奏した最初は、人を介して大企業のプロジェクトと契約した時のことだった。

ひょんなことから、第三者によって誤解を招いた。プロジェクトのトップからお叱りの電話が入った。中身は『寝耳に水』だった。

どうしようか、かなり悩んだ。でもしだい怒りがこみあげてきた、こうなったら、契約解除も覚悟。

仕事を超えたスタンスで手紙を書き、プロジェクトトップへ送った。屋号のない、普通の便箋、封筒で。

手紙がついた頃すぐに、「わかった！」と電話がきた。ひと言そういって電話は切れた。カッコいい。ともあれホッとした。

おかげで関係性はむしろ深まったが、この一件には重要な要素が隠れている。まず「手紙」を許容する先方だという読みが暗黙にあった。

トップとサブの二人の人柄からして、こちらからの〈ぶしつけ〉な振る舞いを受けとめるに違いという感覚があった。

多くの場合、コミュニケーションのとり方は個々人のあり方に応じて功を奏す。単純な受け売りはそうとわかるのも人間、逆効果。

さて、そこで第五は何と表すか。

2025年7月10日（木） 晴れ

今朝は風があった。雲のない青い空。子どもの頃の夏休みを思い出した。暑さがおだやかだった、今にくらべると。

— あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考— (2)

『PAの軸と訓』 10

真に心におもうことで独立したなら、公私の垣根は無いか、かなり低い。「お盆休みはいつからですか？」と尋ねられて返答にこまる。

もちろん定年の概念はない。先日6年ぶりに会った知人も、独立して同じぐらいの年数、「死ぬまでやる」と言っていた。

言い方と意思の持ち方は違うけど、イメージは通じる。LYK流PAを自問しながら、自然に最期の瞬間が訪れる。

ワークとライフが一体化しているのと、LYK流PAの精神からも、「顧客」の捉え方は一般的なものとは少し違うかもしれない。

とにかく仕事上での出会いも、プライベートでの出会いも区別がない。出会いとして同じで、あとは縁があるかどうか。

縁につながるのは間違いなく『類は友を呼ぶ』にあたる人なので、人生そのものにおいて、重みが増す。

だから個人的には、顧客以上親友未満でいえなくもないが、少し違う気がする。朋友と盟友をかけあわせ、盟朋？

それはさておき、あなたのPAもまた「顧客」を超えているはず。ひょっとすると生涯ご縁の続く場合だってある。

中井久夫先生が治療者にむけて「患者に畏敬の気持ちをもつこ慢性患者を慢性患者とみなすのを止める」よう説いていた。

そうすればいろいろなものが見えてきて、治療のための隠れた芽に気づくと、『最終講義』の中で話されていた。

これにならう。PAは顧客を、「顧客」であるけど、その背景・土台は豊かな自分史をもつ一人のパーソンと捉える。

で、第五の訓。「踏みこまず時に踏みこみ、立ちいらず時に立ちいり、顧客とコミュニケーションする」。まずはこうしよう。

2025年7月14日（月） 晴から雨へ

朝一番は気持ちのよい夏の青空だったが、午後からは荒れる予報。各地の急な激しい雨のニュースは他人事でない。まだ何度心配しないといけないのか今年の夏の気象。

— あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考—（2）

『PAの軸と訓』 11

PAの軸と訓、ここでまとめよう。PAの軸（守るべき究極）は「クライアントからの、クライアントへの信頼」

訓の一、「志を同じくする人と自然に出会えるよう、孤軍奮闘にめげず、自分磨きにつとめる」。

その二、「押しつけず、押し売らず、押し量る」

その三、『毎日1時間は、休養と教養のために使う』

その四、「自他ともに押れず、〈微細な変化〉に気をくばり、呼応・適応する」

その五、「踏みこまず時に踏みこみ、立ちいらず時に立ちいり、顧客とコミュニケーションする」

今あらためて「訓」を『常用字解』（白川静）で調べた。古代中国で土地の霊を安らかにするためにお祓いのことば（言霊）を述べた。

「土地の祭祀のとき、神に唱えることばを訓といった。のちに〈おしえる、みちびく、いましめ〉の意味となり…」。

訓は自分を教える言霊。人間は忘れる生きもの、だから生きていられるということもある。ただ大切なことも忘れがちになる。

あえて言葉にして、目にみえるようにして、意識にのぼらせることは、『転ばぬ先の杖』、危機管理にもなる。

P A 一般の訓として今回考えてみた。一つのひな型にはなるのではないか。あなたの P A の軸と訓を考えるきっかけに。

わたしには、すでにわたしの軸と訓がある。ある節目で更新している。そのつど少し仰々しく書いてファイルし、時々みる。

他にも貴重な言葉は書いて、みる。事務所を開設した時から自然にそうするようになった。

その数もかなりになった。その内の究極のものは別途小さなものに書き写して、スマホや手帳のポケットに入れている。

スキマ時間にみる。自然に背筋がのびる、ゆるんだ目も少し引き締まる。ほどほどの緊張感にヒラメキも湧いたりする。

経験的にも、訓は自分をおしえる、みちびく言霊にちがいない。

2025年7月18日（金） 晴れ

昨日の雨が少し気温をさげた。今朝あるいてなんとなく足取りが軽い。気候でこれだけ違う。日中はまた暑くなり、また連日猛暑の予報。明日は土用の丑。

ー あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考ー (3)

実践の象徴 1 「人づけ」

2022年から接した『世界における索引と徴候』と、先日読み終えた『最終講義』は、異なる専門職にも大いに勉強になる。

特に個人的には、なんども話したように、中井久夫先生には肌感覚で親しみをおぼえる。

『私の日本語雑記』で、受話器を受ける耳は左、というのはビックリした。「右耳で受けると心なしか乾いた論理しか伝わらない」。

“同じだ…”。他にも、不遜ながら、そう感じるものが少なくなかった。独りよがりだが、後押しをもらった感覚がありがたかった。

たぶん他の専門職で誰かのパーソナル・アシスタントであろうとする人には、この感覚が通じるのではないか。

上記2冊には、専門を超えて、人を支える仕事のあり様が説かれていと思う。”！”と感じた箇所がいくつもある。

それらから、PA実践のよりよい有り様を考えようと思う。最初は、『世界における索引と徴候』の318Pにあった「人づけ」。

「人間の中にはそれほど有害でなく、強引でもなく、限度内であなたの役に立とうとしている者がある」ということを強制性なしに伝達しえること

本の中では、怒声を浴びながらも薬を自宅に届け続けた医師の実例が載っていた。半年後、患者さんの心が開いたそう。

わたしのPAの場合、直接のクライアントは、先方がこちらを見つけ、意味を感じて接点ができるから、「人づけ」におよばない。

一方、中間支援組織のセミナーや個別コンサルなどで出会う起業家や経営者は、基本的には一過性。

その場かぎりでも何ら問題はない。ただ、時々なぜかこちらに親近感をもってもらうことがある。

20年近く前に出会って、今も交流している他府県の人も何人かいる。大阪の知人を紹介したりして、喜ばれている。

逆にこちらが気にある場合もある。といって何か働きかけをする必要も義理もない。でも、やったりする。

2025年7月21日（月） 晴れ

今日もよく晴れている。昨日ほど風がないから、早朝からいやな暑さだった。明日は「大書」、次は「立秋」だが、秋はかなり遠そう。

— あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考— (3)

実践の象徴 1 「人づけ」(続)

気になった人のところへふらっと訪ねる。そういうことをする。こちらとしては、散歩がてらという軽い気持ちである。

時間と時におカネもつかうことになるが、それは気にならない。なぜ気にならないんだろう、今あらためて考えてみる。

もともと自分の気を大事にするからかもしれない。他のことでも、何か気にとまったこと自体に意味を感じるタチ。

それにPAを自分の業にするぐらいだから、基本的には奉仕精神は人並以上にある、そういっても許されるかと。

相手の反応はどうか。これが案外にぶい。「人間、自分が想うほど相手は想っていないもの」といったんは覚った。

いやいや、そうでなくて、戸惑っている可能性もある。さらに、「営業」と受けとめる人がいたかもしれない。そう推察もできた。

こちらは勝手にやっているだけだから、そう受けとられてもいい。ただ、中井先生と患者さんとの関係とはちがって、続ける意味はなくなる。

同じ人に続ける意味はなくなるけど、また別な気になる人が出てくる。その人もまた不可解な感じで、また別なケースに…。

ところで、なぜ気になるのか。ちょっと考えてみよう。相手の何が気になって、ちょっと励みになればと行くのか…。

思い返してみても、こういう風に言えるかもしれない。その人なりの世界はあるのだけど、閉じたものを感じて、気になる。

自分なりの世界は他のその他の世界があって、魅力がわかるし、他の人たちに魅力を提供できる。

何かしら、惜しい、という感じが自分の中に生まれるのかもしれない。空気穴ぐらいはあけられないかと、動くのかもしれない。

でも相手はまったくわからないから、同じ人に動くとしても3度ぐらいまで。また別の人のために動くことになる。

わからない人にはわからない、一方で、わかる人にはすぐにわかる。ここにも、『類は友を呼ぶ』が働いているのでしょう。

ともあれ、これから、こちらが気になった人には、一度は気にかけて動く。これは続けるだろう、そういうタチだから。

2025年7月24日（木） 晴れ

今日は天神祭の宵宮。最後に行ったのはたしか25年以上前。暑さは気にならなかったけど、今では祭自体やっていいか、危険な暑さ。予報では今日明日も猛暑日。

ー あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考ー（3）

実践の象徴 2 成功法の無効

「第一回に成功した方法は第二回目では、むしろ、無効であるのが普通である」（中井久夫）

この箇所を読んだ時、世界は異なるけど、肝に銘じるべきことだと感じた。別紙にメモにして残した。

P Aの仕事は非定型であるから、同じ方法を使うことにはなりにくいものの、そもそも、そのつど成功法を供しているかとい問題がある。

これまた中井先生が教えてくれた、「面接とは面接時間以外の全ての時間に行われているものだ（ハリー・スタック・サリヴァン）。

この言葉はP Aの仕事にあてはまるのではないか。「P Aの仕事とはP Aの仕事時間以外の全ての時間に行われているものだ」。

クライアントと会っていない時間に、クライアントの状況を想像すること、会っている時のあらゆる〈情報〉を読むこと。

それらから次のアシストを考え、準備すること。そうしてそのつどの「成功」が導かれる。そう言っているか。

ここで「老子」の言葉を思い出す。「難しいことはそれが易しいうちに手を下し、大きなことはそれが小さいうちにしてしまう」。

たぶん、「サリヴァン」と「老子」のこの2つの説を頭から離れないようにすれば、P Aの仕事は、そのつど刷新されていくのではないか。

2025年7月25日（金） 晴れ

今日も朝から暑い。天神祭の本宮、やる人もみる人も大変。夜の花火を期待して、人出もすごそう。今夜は新月、閏6月の始まり。

ー あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考ー（3）

実践の象徴 2 成功法の無効（続）

成功はサプライズと似ているかもしれない。パターン化されると、効果は急降下する。最初の評価さえ、台無しになる可能性もある。

二番煎じにはやはり、最初ほど緊張感や士気高揚は高まらない。出来合いの仕事ぶりに見えても仕方ない。

そういえば、アメリカの航空会社のサービスが話題になった時期があった。乗務員個人の最良で乗客のよろこぶサービスをする。

フラッシュモブが流行った時期もあった。いずれも最初に考え、やった人がエライ。今ではどちらも社会的に一つの「手法」になった。

二度目はともかく、一度は確実に成功した法。それはPA個々人独自の「手法」になる可能性は高い。

その際に、例えば、何かフォーマットと創ったとして、同じ目的で他のPAが創ったものとは、視点や項目だてがずいぶん異なるはず。

クライアントのために考え、施して成功したそれは、PA個々人の知性と感性、意識、知識、技能、センスから生まれたもの。

PA各人がそこに注目する必要がある。たまたま見る機会のあった他者のものに惑わされないこと。独自性が損なわれかねない。

さて、そこで、その独自な手法をどのくらい備えていれば、PA全体の仕事としてよりよく存在感を発揮できるだろうか。